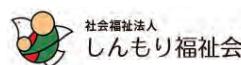


幼稚園への出前木育（木材利用に関する教育活動）授業

「モノ」と「コト」

～大阪で育った木を使い、こどもたちと思い出をつくった事例集～

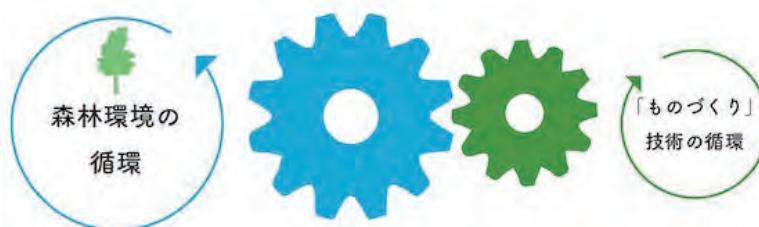


大阪市立両国保育所



活動報告のテーマ

『参加型木材利用例の紹介と、循環型システムの複数構築』



- 間伐による森の再生
- それを利用する意識
- 自然災害につよい
森づくり
- 水産資源と同じ意識
を構築

- 親から子へ。
- 治してまた使う文化へ。
○古き良き木の国へ。
- 価値のわかる、選べる
ユーザーを増やす

活動報告のテーマ

『参加型木材利用例の紹介と、循環型システムの複数構築』

「食育」という言葉は定着していますが、
「木育」という言葉はまだ広がりはじめたばかりです。
お魚やお肉が食卓に並び「命をいただく」という意識は、
育児・教育施設のみならず、各家庭で行われています。

木を調理していただくことができる
一部の技術者だけでしょうか？

「親がこどもに木でものを作つてみせ、
おとのものづくりにこどもが憧れ、ものを大事にする。
そんな「日本ものづくりサイクル」と「循環型資源利用の森林サイクル」を
歯車のように連動させるため行った
「わたしたち日本人の森づくり、ものづくり」を
意識した活動報告の一例です。

プロジェクト事例
**大阪の間伐材でつくる
在園児のためのテーブル**
～社会福祉法人 しんもり福祉会～
大阪市立両国保育所

ある日、教室の電話が鳴り、保育園に打ち合わせに行くことに。テーブルとベンチを数台制作して欲しいとの製作依頼です。園ではたくさんの園児が楽しそうに遊んでいました。

話を持ち帰り、スタッフで材料、形状、大きさ、コストなど、いろんな方向性を検討していきますが完全にコストオーバーです。さあ、どうしたものでしょう。

つくることができ、教えることができ、大阪の木をよく知る

園長のS先生はいいます。
「楽しくかけまわる。遊びを考える。体を動かし。面白いことを探すのは、こどもの得意とするところ。」「でも、もっと、情緒を感じれる。大人になってからも、想いだせる。そんな人間らしい感情を日常で学ばせてあげたい。」

園庭にはみんなに立派な木があるのに、もっと毎日の中で木に触れるものがあったら…とのことでした。

そんなアルブルから提案。いえ、相談をさせて頂きました。

①両国保育所

庭にふと目をやると、立派な「クス」の木が一本。夏、こどもたちはこの木の茂った葉の下で遊び、絵を描いたりすること。ずっと昔から、何人の大きくなっていくこどもたちを見守ってきた木です。

写真: 木の下で遊ぶ子供たち

手元: 木の下で絵を描く子供たち



トラスト協会さんを通して依頼
がきました



園庭にある遊具は金属やプラス
チック製ばかり

園庭用のテーブルとベンチを木
で作ってほしい



大阪産のヒノキをつかったDIY
を提案しました



先生が手伝ってくれた





保護者が手伝ってくれた



地域の大人が手伝ってくれた





DIYを通して地域がつながった ような気がした

プロジェクト事例

さあ、いよいよ製作!! 園児も初めて使う道具に真剣です。



木組みと呼ばれる、金具を使わない丈夫で伝統的な方法で組みます。接着剤を塗る際、かなづちで叩く際、園児が自発的に交代しながら、教えてながら、進めていきます。



1回目でベンチの脚が完成しました。2回目では保護者も加わり、のこぎりで長さを切りたり、研磨で優しい形に仕上げていきます。



2回目でベンチの形が出来上がりました。みんな板に座ってご満悦！

バラバラの棒と板から、人が乗っても丈夫な家具に変身！

3回目はいよいよ「テーブルの組み立て」と「塗装」です。車で到着すると、みんな今か今かと、手を振って待っていてくれました。

初めの電動ドライバーを持ってボーズを決める子もたくさん。

この木ってなんの木？ そう聞くと一齊に「ヒノキ!!」「かんばつさい」と声が上がります。

塗装開始！木目が浮かびあがると、同時におどろきの声もあがります。



このころになると、みんなもっと木に興味を持ってくれます。さわって、匂いをかいだ、木目をみて、里さや硬さを感じながら、「木を頂く」ことを学んでいます。

プロジェクト事例

こどもたちと一緒に作り、製作の手間を省き。なつかし、節などが混じった「大阪のヒノキの間伐材」を使い、つくりませんか？ テーブルとベンチを4台ずつ、囲面のような形をつくります。



夏には生い茂る葉の下でテーブルを囲み、絵を描けるように。遊びたい形に合わせ変形、分解できるように、そんな自由な形をみんなで作り上げています。

ただ、作ができるのはやはり年長さん。園の希望で、年長さんが卒園前に、全3回の講義で在園児につくる、ということで話がまとまりました。早速材料の手配です。



「ウッドベースかわちながの」大阪、奈良、関西の色々な木が集まる場所。ここからトラックで沢山の「節のある間伐材」が到着。

年長組30人が時間内でできる作業を計算し、頼れるところを残し、教室内で加工します。

何を楽しいと思ってもらえるか、何を感じてもらえるかを想像しながらの作業です。

私たちが「完成させる」のではなくみんなで完成させるには、どうするか？アーバルの経験をそこに注ぎ込みます。

さあ、授業の第1回目です。一番はじめに、「木育」の授業。木を使うことが良いことが悪いことか、また、様々な樹種を知ってもらうため、目、耳、触感を使い、「樹種当てクイズ」をします。はじめは緊張の面持ちの園児も、これには両手を上げて一喜一憂。




プロジェクト事例

完成！さっそく木の下、お店やさんごっこをはじめる園児。もっとテーブルとベンチで遊びたかったの... でしょうが、みんなは来月から小学一年生。でも、これからもっと楽しい工作がたくさん待ってるんだよ！



プレゼント！卒園児の名前をレーザー刻印。

木の下で遊ぶ園児たちの写真。左側には「木の下で遊ぶ」というテキストがあります。

『大人になっても、ふとした時に匂いや、手触りで、幼少期の「感じたまま」を想い出し、また、伝える。そんな人になってほしい』

大阪市立两国保育所 园長：正田智美

園長先生のことば

「子供の時間」を満喫し「生きる土台」と「豊かな感性」を育てて欲しい。



依頼主：「大阪市立瓜破西小学校」さま

内容：「小学生と校庭にヤギ小屋と放牧柵をつくる！」(2018年8月～)

学校側で助成金の調達を行い、ヤギ小屋づくりの依頼。依頼業者に悩み、個人のつながりで木育フォーラムに相談。翌年、追加予算にて放牧柵を製作することに。学校の課外授業として、問題提起から解決まで、一企業の体制をとり、生徒が予算管理から案件解決の仕組みを木育を通して学ぶ。

ヤギ小屋づくり(2018年8月～)



1週間

1週間

1週間

2週間

実施2日

1ヶ月

打合
わせ

簡易図面製作
～お見積もり

検討

細部
調整
再見積もり

実施日
確定

材料
手配

クラブ活動
時間実施
アルブル
仕上げ作業

完成

費用内訳

※参考価格です

●材料費	SPF材、金物、大阪産ヒノキ間伐材	1式	150,000	total 390,000
●加工費	出張作業	1式	100,000	
●指導料	出張体験授業(2名3日)	1式	90,000	
●その他	雑費	1式	5,000	

放牧柵作り(2019年3月～)



2週間

2週間

2週間 1週間

2週間

打合
わせ
概算見積
問
木育講義で
会議
授業内
実習専門
行い会議のを
各担当
療り合わせ

お
図
面
積
り定
施工
体
驗

アルブル
仕上
げ作業
完成

費用内訳

※参考価格です

●材料費	大阪産ヒノキ間伐材板・杭	1式	55,000	total 130,000
●加工費	なし		0	
●指導料	出張講師料 2名(1回) 3名(1回)	1式	60,000	
●その他	雑費	1式	15,000	

担当教諭のことば

未来の地球は子どもたちの足元から。地球課題と学習課題を「Glocal」につなげたい。



ご興味のある方は

くわしくは掲載WEB BOOKをご参考ください。

アルブル木工教室ホームページTOPメニューより→企業・団体さま

URLより→ <https://www.e-arbre.com/catalog/mokuiku/>

※随時webbookを更新しております。内容が追加・変更されます。ご了承ください

■他の事例

能勢材でつくる自分たちの机と椅子(能勢ささゆり学園・能勢小学校)

大阪府民の森跡地の小中一貫校。その空き施設に小学生・市民ボランティアが一体となり、生徒・市民が自由に使えるテーブルとベンチを能勢産材で20台ずつ製作。



台風に負けない！学校の倒木を活かそう！ブックエンドづくり(寺池台小学校)

台風などで危険とみなされ、倒された老木を移動製材機にてグラウンドで目の前で板にし、6年生の図工の授業にて各自のブックエンド(本立て)と学校に寄贈するベンチを作成。



旧神戸銀行の机をみんなでリメイク！一般社団法人ガールスカウト大阪府連盟

個人のつながりで頂いたという旧神戸銀行のテーブル。いまではもうボロボロですが、団員が囲み、語らう場としてずっと中心にありました。できるだけ素材を活かし、みんなで使いやすくリメイクをしたプロジェクト

